

おもいやり通信

発行: 社会福祉法人 清水保育園
幼保連携型認定こども園 清水こども園
発行日: 令和6年2月22日

第49号



寒さも少し和らぎ、日の光の暖かさ、ありがたさを感じます。早いものでもう2月下旬。今のクラスで過ごすのもあと1ヶ月を残すのみとなりました。この1年で心も体も成長した子ども達。初めはぎこちなかった思いやり行動も、今では自然に行う子が多くなりました。

1月1日に石川県を中心に発生した大地震により甚大な被害が発生し、いまだ厳しい避難所生活を送られている方が大勢います。私たちも思いやりの心を大切に、各々がそれぞれの立場で出来ることを少しでも行っていくことが大切だと思います。

思いやり3原則『手伝う、励ます、ありがとう』の実践は世界を幸せにする魔法です。

相手の気持ちを察し、さりげなく手伝い、励まし、感謝することが出来る、そんな素敵な子どもたちに育って行ってほしいと願っています。



今年度の思いやりテーマ

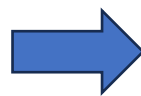
ありがとう

ありがとうメッセージカードで桜の花を咲かせよう

今年度は、保護者の皆様の協力をいただきながら、「ありがとうメッセージカードで桜の花を咲かせよう」活動を行ってきました。

その結果、皆さんの温かいメッセージカード(花びら)が沢山集まり、「おもいやりのさくらのき」が満開となりました。ご協力ありがとうございました。

桜の木は清風の道に飾ってあります。そして今後は、卒園式に飾り、卒園児を思いやりいっぱい的心で送り出したいと思います。



令和5年度 第3回思いやり集会を開催

思いやり集会で心があたたかくなりました

令和6年2月5日(月)に思いやり集会を行いました。今回は園内放送を利用して各クラス毎に思いやり集会に参加しました。園長先生の話、おもいやりのうた合唱、各クラスからの思いやりエピソードの発表が行われ、子どもたちは集中して放送に耳を傾けていました。その後、幼児クラスは、園独自に作成した「思いやりカルタ」を楽しみました。



思いやりエピソードを発表するこどもたち



おもいやりカルタを楽しむこどもたち

清水こども園へのありがとう

沢山の暖かなメッセージをありがとうございました。おかげさまで「おもいやりのさくらのき」が満開となりました。



「ありがとう」という言葉

不思議な力

「ありがとう」という言葉には不思議な力があります。たとえば、エレベータで降りる際、私はどんなに急いでいても「開（OPEN）」のボタンを押し続けて、最後の人が降りるまで待ってから降りるようにしています。そうすると、海外では、ほとんどの人が「サンキュー」であったり、「グラッツェ（イタリア）」であったり、「メルシー（フランス）」であったり、「ありがとう」と笑顔で微笑みかけてくれます。ところが、日本人の反応は違います。なぜか「すみません」と下を向きながら、視線を合わせず出て行くのです。「ありがとう」も「すみません」も同じ五文字なのですが、受ける印象はまったく異なります。「すみません」といわれると、こちらもどことなく気まずい思いをしますが、「ありがとう」といわれると、照れくさいような、うれしいような気持ちになります。



●「ありがとう」には「すみません」にないプラスのパワーがあります。

相手に活力を与える言葉

それは「ありがとう」という言葉が、感謝を伝えるだけの言葉ではなく、相手に活力を与える言葉だからでしょう。そのため、私も「ありがとう」という言葉が好きでよく用います。

レストランでお勘定を済ませた後も、スタッフの方に「ご馳走さまでした、ありがとう」です。バスを降りるとき運転手さんに対しても「ありがとう」です。部下がお茶をもってきてくれたり、資料をコピーしてくれたときも「ありがとう」です。自分の至らないところを厳しく叱ってくれた人に対しても「ありがとう」です。ホテルやレストランなどで自分が「お客さま」の立場になったとき、店員に対してぞんざいな口のきき方をしたり、やたらと威張る人がいますが、人としての品格を私は疑います。たとえ、自分がお金を払う立場であっても礼節をわきまえ、心から「ありがとう」といえる人間でありたいと思います。

言葉にして伝える

家族や一番身近な人ならなおさらです。たとえ何年経っても、毎日料理をつくってくれた妻に対して、夫は「ありがとう」ですし、ゴミをだしてくれたら、妻は夫に「ありがとう」なんです。自分との関係が近ければ近いほど「ありがとう」と口にだすことが大切です。

ところで、あなたのご両親はお元気ですか。いままでを振り返って、ご両親に感謝していますか。あなたは最近、親に感謝の気持ちを、直接口に出して伝えましたか。あなたがいまこの世に存在しているのは、親が生んでくれたおかげです。ご先祖さまがあって、いまの自分があるのです。身近な人こそ、直接言葉にして、感謝の気持ちを伝えることが大切です。

たしかに、普段は気恥ずかしくてなかなかいいにくい、というのわかります。しかし、感謝とは言葉に出して、はじめて感謝の気持ちが相手に伝わるのです。

人生のなかで、「おとうさん、おかあさん、いままで育ててくれてありがとう」と面と向かって、親に挨拶をするのは結婚式前日だけというのも、なんだか不自然な気がします。誕生日とは、自分を生んでくれたご両親、自分を育ててくれた人に感謝する日でもあります。帰省したときや記念日など、何かの機会を見つけて、いままでの感謝の気持ちをきちんと伝えてみませんか。



自分の心を豊かにする

「ありがとう」には不思議な力があります。いわれた方も、いった本人も、何ともいえない清々しさを感じます。周囲も、人が素直に感謝の言葉を伝えている姿勢を見ると、心を打たれます。あなたは日常生活において、口癖のように「すみません」という言葉を多用していませんか。ならば、その「すみません」という五文字を、すべて「ありがとう」に変えてみるのです。「すみません」という言葉には、相手を元気づけるパワーはありません。「ありがとう」には相手の心だけでなく、自分の心をも豊かにする力をもっているのです。